岡山県教育庁義務教育課

令和6年11月12日

©岡山県「ももっち」

# 児童生徒の「分かるけど、できない」という現状を克服し、「できる」「できた」の実現につなげましょう！

全国調査結果から改めて、「算数科における正答率40%以下の児童の割合が高い」ことが明らかになり、県教委としては、その割合を減少させることを重点課題として取組を進めています。一方、「授業の内容はよく分かる」と回答した児童は8割を超えています。この点に関して、**今年度のAP訪問においても、「分かった気持ちにさせてはいるが、実際はできない児童が多い」という課題を挙げる学校がとても多くなっています。**この状況を解決することが喫緊の課題だと考えます。

## 個に応じた指導の実現に向けて

右の研修資料は、**令和元年度**のものですが、課題として「授業5に沿うことが目的化」を挙げています。

具体的には、教師が「わかりましたか？」と尋ねるだけで、**「目標の達成度を確認することができていない」**ことを指摘しました。

| 授業５ | 授業場面 |
|---|---|
| めあて（目標）を示す | ・教員から一方的に提示する<br>・問題文がめあてになっている |
| 自分で考え、表現する時間を確保する | ・数人の児童生徒とのやり取りに終始している<br>・とりあえず、ペアやグループにする |
| 目標の達成度を確認する | ・「わかりましたか？」や「どうですか」と問い「いいです」と答えさせて済ませる |
| 学習内容をまとめる | ・児童生徒の言葉を無理やり解釈する<br>・都合のいい考えだけを取り上げる |
| 授業の振り返りをする | ・情緒面のみの振り返り |

授業５に沿うことが目的化し、児童生徒がどのように学ぶかについての意識が薄くなっていませんか。

表：「学習指導のスタンダード　増補版」研修資料から抜粋

**ここから５年経ちましたが、算数の現状を県内の先生方に尋ねたところ、改めて次のような課題が見えてきました。皆さんの学校や先生方に当てはまることはありますか。**

- □ **めあてを示すことや、考えを広げたり深めたりすることに時間がかかり、目標の達成度を確認する時間が十分に確保できていない場合がある。**
- □ **授業前にめあては考えるものの、それを達成したことが分かる練習問題を想定していない場合がある。**
- □ **練習問題に取り組ませるものの、個々の解答状況を把握しないまま全体で答え合わせをしたり、口頭のみで答え合わせだけをして終わったりするため、個々の児童の定着状況を把握していない場合がある。**
- □ **早くできた児童ができていない児童に答えだけを教えて回り、できていない児童ができるようになったかが分からない場合がある。**

正答率が低い児童に対する個に応じた指導の実現に向けて、まず**現状や達成度を把握**する必要があります。その上で、**習得状況に応じて授業内での個別指導や授業外での補充的な学習及び家庭学習等の工夫を行う**ことが考えられます。

出典：岡山型学習指導のスタンダード（平成26年6月）

## 算数科で児童の達成度を把握するために

めあて（目標）が達成されているかどうかを見届けることは、授業において非常に重要です。その上で、個に応じた指導を行います。

その実現のために、次のような工夫が考えられます。

- ○ 単元の**適切なときに評価場面を設定**する。
- ○ 目標を達成した児童が解けるようになっている**練習問題を準備**する。
- ○ 練習問題を個人で解く時間を確保し、**理解度を把握**する。
- ○ **できなかった児童には個別指導や授業外での補充的な学習**等を行う。

単元や授業の適切な場面において、子どもがめあて（目標）を**達成したかどうかをしっかり見取る**授業にしていきましょう。